

バランス、取れていますか？

教育心理学科長 堤 幸一

皆さん、年度末まで残りの日数も少なくなりました。今はまだレポート締切や試験週間が迫っていて気忙しいかと思いますが、春休みには2012年度を振り返って、自己点検・評価することを推奨します。

入学当初の気持ちを忘れてはいませんか。目標に向かって、あるいは目標を決めることに向けて、地道な努力を続けていますか。このように節目毎に、初心を忘れがちな日頃の自分を反省し、現状を点検・把握してみると、今何をすべきか、これから何をしていくべきかが見えてくるでしょう。

そのとき注意して欲しいことがあります。それはバランスに気をつけようということです。目標というと、大学生活でもっとも重要なのは、やはり学業の目標です。教育心理学科で学ぶ者として、どんなテーマを持って学んでいこうとしているか、まずはしっかりと考えてください。もちろん卒業要件を満たすことや教職課程を修めること、サークル活動、アルバイト、ボランティア活動をすること、友人や仲間と楽しんだり、話し合ったりすることなど、皆さんそれぞれに大切な目標があるでしょう。

全部の目標達成を全力で目指すことができるのは理想ですが、人間には能力・体力の限界があり、時間も無制限にあるわけではありません。限られた資源をバランス良く配分し管理することは、実は非常に重要です。たとえば、アルバイトの楽しさと経済的な利点に魅了されてしまい、体力、動機づけ、時間を全力投入してしまうと、その他にもある自分の大切な目標への努力がおろそかになってしまいます。学業でも同様に、興味があって楽しい講義や勉強にだけ資源を振り向けてしまうと、辛いけれど必要な目標への努力がおろそかになるでしょう。賢くバランス配分に注意を払って自己管理してください。その上での地道な努力の先に、皆さんの未来はみえてくるものと思います。

授業紹介

「学校看護学演習」(郷木義子教授)

取材 1年 小川友菜

養護教諭のための必修授業「学校看護学演習」について、担当の郷木先生と受講している1年生に取材しました。

この授業では、養護教諭にとって必要な看護的基礎知識と保健室に来た児童・生徒への援助・支援方法を学びます。また、理論と実践の両方を重視しており、保健室の環境整備、冬場の感染予防である手洗いの実習、物品の取り扱い方や車いすの援助の仕方などの実習を中心に行っています。受講者は52人で実習科目としてはやや多めの人数ですが、どの学生も積極的に取り組んでいるそうです。

担当の郷木先生からは、「実習で行っていることは養護教諭としてだけでなく生活にも役に立つ技術です。だから、日常生活にも思いを馳せて授業に臨んでほしいです」というメッセージをいただきました。

この授業に対する受講者の感想は、「雰囲気楽しい」「わかりやすい」「手洗い実習やベッドメイキングなど将来の役に立つ演習が多く、実践的」などでした。授業の内容が充実していて学生からの人気も高い授業です。



1年1組の一番男気がある?人は「井浦 翼」くんです!

井浦くんは、クラスで唯一の男です。そして、本人曰く、男気があるそうです。いつも香川からマリナーライナーで通っており、毎日頑張って授業にきています。



1年2組の一番オシャレな人は「大深 栞」さんです!

「おしりん」こと大深栞さんは、身長が高くてスタイル抜群!! ショートヘアもとってもお似合い!! メイクも上手くて、着ている服も毎日オシャレなおしりんは、まるでモデルさんみたいです。



聞いちゃいました
 クラスで一番
 ○○な人は?

Have a good tea time!

教育心理学科 キャリア支援講演会 2012/6/7

本年度の学科キャリア支援事業として岡山県教育庁からお二人の先生をお招きして、「特別支援学校で教員を目指す皆さんへ ～岡山県の求める人物像と教員採用試験情報」という演題でご講演いただきました。講師の川上慎治先生と中村誉先生は、いずれも教職のご経験が長く、教育の現場で働く喜びと苦勞の両方をよくご存じの先生でした。講演前の打ち合わせでも、「これからの岡山県の教育を担う学生の皆さんに学校で先生として働くことの楽しさやすばらしさを伝えたい」と力強くお話しくださいました。受講した学生たちは、お二人の先生の思いをしっかりと受け止めたようです。感想文の一部を紹介します。



川上慎治先生



中村誉先生



信頼される先生に!

2年 野呂幸代

「好かれる先生」より「信頼される先生」という言葉が心に残った。今まで私は、良い先生というのは、みんなから好かれる優しい先生だと考えていた。しかし、優しいだけでなく、時には厳しく叱ることも大切なのだと認識した。教師は大変な仕事ではあるが、やりがいを感じられる素晴らしい仕事である。今日のお話を聞いて、自分自身が教師になるということが身近に感じられ、教師になりたいと自覚した。お聞きしたことをしっかりと胸に留め、今のうちからしっかり準備していきたい。

私も子どもと関わりながら成長したい!

2年 藤井美歩

お話の中から、子どもの温かさや「支援」の大切さを学んだ。これまで特別支援学校と通常の学校とは違うものだと思っていた。しかし、特別支援学校が通常の学校に助言・指導を行うというお話を聞いて、すべての教育の方法はつながっているのだと実感した。写真で見た子ども達の生き生きとした姿や精一杯生きようとしている姿に心が動いた。二人の先生のお話を聞いて、子ども達と関わりながら自分も成長していけるようになりたいと強く思った。

1年3組の一番しっかりして
いそうな人は「大山華澄」さんです!

3組で一番しっかり者だと思う人は大山さんです。なぜなら、クラスでの集まりの時などで周囲に気を配って率先して動いてくれていたからです。



聞いちゃいました
クラスで一番
〇〇な人は?

1年4組の一番じゃんけんが
強い人は「奥田翔子」さんです!

4組は皆元気で仲の良いクラスです。その中でも奥田さんは、癒し系で、皆を和ませてくれる女の子です。だけど勝負事は強く、今回の4組選抜じゃんけんも、圧勝でした。ちなみに、パーで勝ちました!!



1年5組の一番テンションの高い
人は「高坂咲希」さんです!

教育学部教育心理学科の中で、テンションが高いNo.3に入る女の子、高坂咲希さん。ただ、テンションが高いだけでなく、クラスや学科のムードメーカー♥明るい雰囲気がたくさんの人を楽ませてくれる人です😊



聞いちゃいました
クラスで一番
〇〇な人は?

1年6組の一番スポーツマンな
人は「瀬尾沙也香」さんです!

6組で一番スポーツマンな人は、瀬尾沙也香さんです。中でも、バスケットボールをしている姿は、一段とカッコいいです。また、バスケットボールに対する気持ちは熱いです。

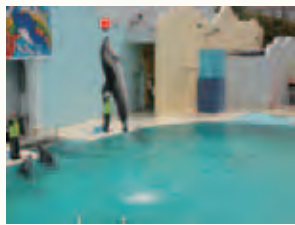


新入生研修旅行 in 神戸 2012/4/13-14

新入生同士と教員の親睦を深めるために、今年も神戸に研修旅行に行ってきました。

異人館巡りやハーブ園での散策、水族館と科学館の見学と、教育心理学科の新入生みんなで回りました。夜は、ホテルでフルコースのディナー。ちょっと緊張感が漂っていましたが、美味しい食事をいただきました。レクリエーションでは、パフォーマンスやクイズをまじえて新入生が自己紹介。お互いを知る第1歩になったようです。

研修旅行に行って、気心知れた仲間同士になって帰ってきました。



1年7組の一番髪の長い人は「高橋明希子」さんです!

なんと髪は腰より長い! そんな明希子ちゃんは弓道部で頑張る一年生です! クッキー作りが得意で、手作りクッキーをみんなにプレゼントしてくれる優しくて明るい女の子です!



1年8組の一番GoingMyWayな人は「西原彩加」さんです!

彼女は明るく天真爛漫な人で、クラスのムードメーカー的存在です。自分が決めたことは率先して行い、きちんと意見を言うことができます。独特なキャラで、みんなを笑わせてくれます。

聞いちゃいました
クラスで一番
〇〇な人は?



新入生歓迎イベント 2012/5/12

2年生が実行委員となって教育心理学科新入生歓迎イベントが盛大に行われました。午前中は体育館で運動会、午後は旭川の河川敷でバーベキューをしました。

今日をきっかけに学年を超えて仲が深まったと思います

1年 森脇未紀子

運動会では、バスケットや障害物リレー、大縄をしました。どのクラスも団結して、楽しく取り組んでいました。今日をきっかけに仲が深まったと思います。同時に、先輩とも交流を持つことができ、先輩の皆さんのおかげで私達は安心して新歓を楽しむことができました。本当にありがとうございました。



来年度も1年生に繋げてもらい、教育心理学科を盛り上げていきたいです

2年 山本希絵

私は、実行委員として運営をする側だったのですが、私たち2年生が第1期生ということもあり、初めて行うイベントでした。去年参加させていただいた初等教育学科との運動会も参考にしつつ、私たちに頑張り続けた結果、第1回にしてはとても良いイベントになったのではないかと思います。来年度もぜひ今の1年生に繋げてもらい、まだまだ人数の少ない教育心理学科を盛り上げていきたいです。



ボランティア体験

ボランティア報告

1年 國弘明日香

私は、出身地の山口県光市にある大和総合病院でボランティアを行いました。

主な活動内容は、総合案内、患者さんとお話、病院の掃除、食器洗いなどでした。

このボランティアを行った理由は、これから養護教諭を目指す上で看護の勉強をするため、実際にその現場で活動してみたいと考えたからです。

看護師さんが、患者さんや家族の方と積極的にコミュニケーションをとったり、患者さんの口の動きや汗のかき方から体調や思いを読み取り対応されたりする現場を見て、コミュニケーション能力や観察力、細かい気配りの重要性を学びました。そして、養護教諭にも共通して必要であるこれらの力を身につけていくことが今後の自分の課題だと思いました。

活動初日は、患者さんへの声が届かず作業も要領よくできなくて焦りや不安もありました。しかし、活動中に多くの方からかけていただいた「ありがとう」の言葉に励まされ、前向きな気持ちになることができました。そして、自然と大きな声で患者さんと接することもできるようになり、反省を次に活かすことが大切だと実感しました。

今回学んだことを自分のものとしていくため、これからも多くのボランティアに参加し、見つけた課題を実践して、養護教諭として必要な力を身につけていきたいと思えます。

ボランティアの内容とその経験から得られたこと

2年 桐山 幸

私は現在、小学校の保健室で来室してくる子どもの対応などのボランティアをしています。百聞は一見にしかずというように、現場で養護教諭の先生の日常を実際に見ることはとてもよい経験となっています。

私はこのボランティアに行き、一人の子どもに対応するために多くのことが求められているということに気づきました。例えば、保健室に来る子どもの言葉や顔色などの様子だけでは処置をするのに十分な情報を得ることが出来ないときがあります。そのような時、どうして来室したのかと子ども本人から話を聞くだけでは不十分で、家庭や校内の先生方と連携して子どもの生活環境などを把握しなければならぬことが何回もありました。

子どもはいつ、どこで、どのように体の調子を崩してしまうのか予測が付きません。その時々何かが求められているのか見極めて行動していく必要があるのだと感じました。そのために養護教諭は、臨機応変に行動する柔軟性やどんな先生とでも上手く情報のやりとりができる幅広い人間性が必要なのだと感じました。

最後に、子どもと話をすることは、情報を得るだけでなく、子どもを元気づけたりする大切な関わりであることを学びました。言葉を交わすことで、子どもが笑顔になったり元気になったりすることはとてもうれしい経験でした。このボランティアに参加することで、私自身も子どもたちから元気をもらいました。

1年9組の一番背の高い人は「藤井 誠」くんです!

藤井くんは、私たちのクラス唯一の男子です。特別支援教諭の資格を取るための勉強をしています。彼はクラス内だけでなく、学科内のよきムードメーカーであり、よく場を盛り上げてくれます。



聞いちゃいました
クラスで一番
〇〇な人は?

You are
No.1

1年10組の一番クールな人は「舩岡 亜耶」さんです!

いつもジャージ登校で見た目は、とってもクール。しかし、内面はやさしいと思われる。10組のリーダーで、意外としっかり者。頼れる存在(笑)!
こんな舩岡さんをどうぞよろしく。



1年11組の
一番消費税増税に反対
している人は「山磨 創一郎」
くんです!

現在5パーセントである消費税が約1年後の2014年に8パーセント、さらに1年後の2015年にはなんと10パーセントになります!これでは国民の生活はますます苦しくなるばかり。いつデフレは終わるのでしょうか?



聞いちゃいました
クラスで一番
〇〇な人は?

1年12組の一番かっこいい人は「和田 愛理」さんです!

和田さんは、かっこよくて、声が艶やかで、バスケットが上手い人です。男だったらすごくもてそうです。そのうえ、しっかりしていて、とても頼れる存在なのです。



旭川荘への施設見学 2012/06/27



教育心理学科の1年生が「初年次教育Ⅰ」の授業で、昨年同様、社会福祉法人旭川荘に施設見学に行きました。旭川荘は、地域に住む障害のある子どもから高齢者までの医療福祉ニーズを担ってきた歴史ある総合福祉施設です。

見学では、各施設の概要と注意事項について職員の方から説明を受けました。その後、4グループに分かれ、療養園・愛育寮または児童院・竜ノ口寮に見学に行きました。

今回の記事内容は、児童院・竜ノ口寮を見学した1年濱本光咲さんが、2年藤井美歩さんの考えた質問に答えてくれたものです。

藤井さん：印象に残ったことは何ですか？

濱本さん：利用者の方々の生き生きとした表情です。施設には、利用者の方の芸術作品が多く展示されていました。そのような活動を通してこそ生き生きとした表情ができるのだと私は思いました。利用者の方が、何らかの芸術作品を作ることを生きがいとしているのだと思いました。

また、私たちが挨拶するよりも早く笑顔で挨拶してくれる方もいました。どの

方も元気に挨拶をしてくださり、そのことがとても印象的でした。これは、旭川荘での生活が利用者の方にとって充実しているからではないかと思いました。



旭川荘の利用者の方が作製された作品です

藤井さん：施設見学をして学んだことはありましたか？

濱本さん：人の気持ちを知ることの難しさを知りました。職員の方の話から、人

には様々な考えや思いに大きな違いがあると改めて実感させられました。健常者の方には平気なことも、障害のある方には不安に思うことも多くあるのだと分かりました。

また、コミュニケーションをとることが得意ではない方の表情や反応・行動を見て感情を読み取ることが大切だと職員の方から聞き、些細なことにも気を配ることの大切さを学びました。



藤井さん：今後を活かせそうなことを教えてください

濱本さん：コミュニケーションの取り方です。それは、私たちばかりがコミュニケーションを取ろうとしているのではなく、相手もコミュニケーションを取ろうとして、様々な反応をしているということが分かったからです。そのことに私たちが気づき、相手の気持ちを汲み取りコミュニケーションを取ることが大切です。

もう一つは、障害のある方がやりたいことができるような環境を作る工夫です。環境作りを工夫することで、障害があっても多くのことができるということがわかりました。

施設見学で貴重な体験をさせていただくことで、支えケアする仕事に就こうとしている学生たちが育つ姿がよくわかるインタビューでした。

研究紹介—北川歳昭先生

取材 2年 森部真子・大西亜海

眼鏡がお似合いで、いつも優しい笑顔で私たちを包んでくれる北川先生。そんな先生が「座席行動の研究」というテーマにたどり着いたのは、学生時代に動物実験をしていた先生が大学教員になって教室で授業をしているとき、「動物のナワバリ行動を人にあてはめるとまさに座席行動だ!」とひらめいたからだそうです。

座席行動に関して先生は2冊の単著を出版されています。1冊目は、『教室空間における着席位置の意味』（風間書房、2003）です。教室の座席空間は4つのゾーンからなり、教室の座席行動はそのゾーンに対する好悪感情の反映であることを明らかにした一連の研究をまとめられたそうです。4つのゾーンのどれを好むかで教師や授業への態度が分かってしまうのです！中でも北川先生が目指するのは教室の左



右両端で、このゾーンを好む人はアンビバレントな気持ちを抱えていると先生はいらんでいるそうです。

2冊目は『座席行動の心理学—着席位置をめぐる心理メカニズムの解明—』（大学教育出版、2012）です。前著で触れられなかった学業成績や人格要因との関係、会議室の着席行動などの研究成果をまとめられました。

「着席位置には、性格や態度など、言葉には表されない心が表現されている」「この研究をしていると人の行動に敏感になる」「研究は楽しくて面白いよ!」という先生のお話をお聞きして、私たちも座席行動の研究に興味をわいてきました。

なでしこ祭での学科企画イベント

2012/
10/20-21

教育心理学科の有志やプレゼメンバーたちが、
それぞれイベントを企画し実施しました

キッズワンダーランド

2年 塚越祐貴

「子どもが喜ぶもの」を作るという目標で、1・2年生の有志が段ボールハウスを作製しました。メンバー全員で協力して仕掛けを考えたり、デザインを考えたりゼロからのスタートで試行錯誤の毎日だったように思います。いざ完成して、当日を迎えるとそこには大勢の子どもたち。たくさんの子どもの笑顔を見ることができた。来年以降も後輩たちがより良いイベントを企画してくれるだろうと期待しています。



認知心理学研究会 (認知研)

2年 山本怜奈

認知心理学研究会では鏡映描写やエイムズの窓といった錯覚の展示と心理検査を行いました。展示物の作成や準備では思うようにいかないこともあり大変でしたが、当日は錯覚や検査の結果に驚かれる方がたくさんいて、頑張った良かったと思いました。まだまだ勉強不足の点もあったと思いますが、多くの方に心理学の面白さを知ってもらえたのではないかと思います。この経験で得たものを今後の学びにも活かしていきたいと思っています。



親子フラ教室

1年 大賀温子

なでしこ祭のダンス甲子園で、いつもフラ教室の初めに踊っている、リロ&スティッチの「アロハ・エ・コモ・マイ」を子どもたちと一緒に踊りました。ダンス甲子園に向けて一緒に練習することで、お母さん方もより一層打ち解けられました。当日は、子どもたちの本番に強いところにびっくりし、見ている学生さんたちが笑顔で手拍子してくれるのを見て、子どもの力ってすごいなあと思いました。楽しくて、他の学科の人にも私たちの活動を知ってもらえるいい機会になり、良かったです。



保健室ボランティア研究会 (ほけボラ研)

1年 馬本佐有里

私たち保健室ボランティア研究会は、「おやつ・手洗い・歯の健康」をテーマに展示を行いました。来られた方に展示について説明し、手洗いチェッカーなども体験してもらいました。来られた方に学んでもらうのはもちろんですが、これから養護教諭を目指す私たちにとっても、準備から当日の活動までのすべてを通し、学ぶことがたくさんあったように思います。来年は今年の反省を踏まえながら、更に活動を発展させていきたいと思っています。



就実公開講座

2012/
10/6-11/17

今年度の就実公開講座(後期)は、「教育心理学科アラカルト～支援ケアする実践科学～」と題して教育心理学科が担当しました。担当した教員による報告です。



第1回(10/6)

障がい者就労の現場から
～わたしたちも
はたらきたい～

教授 石山貴章



第2回(10/13)

「アロハの心理学」

講師 山田美穂



第3回(10/27)

「ふつうの教室にいる
学びにくい子どもの
気持ち」

准教授 岡田信吾

本講座は、報告者自身の実体験をはじめ、最新のデータや先行研究を交えながら、障がい者の「就労支援」を検討していく際に必要とされる観点を提示した。また、多くの事例や実践を丁寧に分析しながら、今後の学校支援体制や方法、サポートのあり方等についての問題を報告した。今回、講座に参加していただいた参加者の方々に感謝するとともに、今後も、この問題を、より多くの方々に認識していただく努力を、地道に継続していきたいと考える。

当日の学生スタッフ・横山寛恵さん(1年)からの感想です。「フラは初体験だったので、驚くことばかりでした。美しい踊りですが、意外と体力もいるのだと知りました。参加された方々が笑顔でとても楽しそうに踊って下さったので、嬉しかったです」

皆さんに「集団授業の中での分かりにくさ体験」をしていただきました。体験することで「学ぶことに苦勞する子どもの気持ち」が分かるのではないかと考えました。参加者の皆さん大変お疲れ様でした。彼らの気持ち、少しでも分かっていただけ良かったですか？



第4回(11/3)

「今どきの子どもの
健康・安全」

准教授 鈴木 薫



第5回(11/10)

「これって認知症？
～早期発見と予防の
ための心理学～」

講師 岩佐和典



第6回(11/17)

「先人たちに学ぶ
健康生活の知恵」

教授 郷木義子

昭和初期から現代までの子どもの健康問題を概観しました。感染症や寄生虫病からメンタルヘルス問題へと変遷した背景には社会現象があることや、携帯電話の利用が子どもの心身に及ぼす影響に関する最新データなどを紹介しました。

第5回公開講座のテーマは、「認知症の早期発見と予防」でした。認知症の代表的な症状についての解説や、初期によく見られる行動的な兆候、さらに予防のための取り組み等について、具体例を交えてお話ししました。

科学的な解明ができなかった昔から言い伝えられている代表的なもの「寝る子は育つ」「早起きは三文の徳」「やわらかきものを27度噛め」「初物を食べると75日長生きをする」をとりあげ、現在解き明かされているそれらのメカニズムを紹介した。改めて、現代人の生活を見直し、自然との共存する意味を伝えた。

プレゼミ「学校ボランティア研究会」の紹介

1年 小林史佳

プレゼミは、それぞれの先生が設定したテーマについて勉強したいと思う人が自主的に参加する「サークル」のような組織です。

「学校ボランティア研究会(顧問 岡田信吾先生、下山真衣先生)」は、図書輪読とボランティア体験の持ち寄りを中心とした活動をしました。図書輪読は前期を中心に実施しました。「子育てに活かすABAハンドブック」を少しずつ読んで勉強しました。本から学ぶだけでなく、先輩の体験談も交え、ボランティアを行うにあたっての心がけや子どもとの接し方を楽しく学んできました。ボランティアは夏休みにそれぞれ行き先を見つけて参加しました。後期はそのボランティア体験での経験や課題を検討しました。

プレゼミは他にも、「ほけボラ研(顧問 鈴木薫先生)」、「認知研(顧問 堤幸一先生)」、「親子フラ教室(顧問 山田美穂先生)」が活動しています。また、「療育(顧問 下山真衣先生)」は、プレゼミではありませんが、学生も参加して活動しています。



私は、ボランティアを母校の学童施設で行いました。現在は人手不足に悩まされているようです。他にも人員不足を嘆く学校や関係施設は多くあります。自分の力を子どものために使いたいという人は、このプレゼミで知識を蓄えボランティアに参加してみてください。



プレゼミ「親子フラ教室」



「療育」の様子

就実大学教育心理学会講演会 2012/11/15

山本万喜雄先生「私の出会った子ども・青年たち」を聞いて



2年 吉岡敬之

山本先生の特別講義では、健康教育40年間の経験を、先生が連載していた雑誌や教師として働いていた頃の写真を資料に講演していただきました。健康教育の中で、否定的な現象の中に肯定的なものの芽生えを見出すという見方が大切なのだと教わりました。それは、先生が定時制高校で働いていた頃に出会った青年労働者たちの姿から気づかされたそうです。厳しい労働条件のもとで働いていたために、個々の理由で学校に遅刻したり、まともに授業を受けられなかったりする生徒たちが多かったそうです。複雑で多様

な問題を抱える児童・生徒たちに対して、学校から管理するという視点ではなく、共感するという視点で接していくことの大切さを学んだとのことでした。また、教師として働くには「命、暮らし、生き方」を知ることが重要だということ学びました。山本先生のユーモアと熱のこもった講義を受けて、学ぶ喜びを知り、学ぶことにより新しい自分の発見をしていきたいと思いました。

フォトギャラリー



写真提供:藤田侑子さん(2年)、北村志帆さん(1年)

編集後記

今年度号から就心会学生委員を中心に学生さんたちが学科報レイアウトの立案・記事の企画や記事執筆・写真撮影の多くを担当しました。学生さんからの視点で学科報が出来上がったのではないのでしょうか。今後も学生さんのアイデアを取り入れながら、学科報tea timeを充実させたいと思っています。(宏)

教育心理学科 平成24年度 行事報告

4月1日 入学式	6月27日 旭川荘見学
4月14日 研修旅行	7月21-22日 オープンキャンパス
4月23日 就実大学教育心理学会(就心会)総会	8月26日 オープンキャンパス
5月12日 新歓イベント(学科運動会)	9月16日 教育懇談会
6月7日 キャリア支援講演会	10月20-21日 なでしこ祭(大学祭)
6月17日 オープンキャンパス	11月10日 教員採用試験模試
	11月15日 就心会講演会